

創立70周年記念誌

東京農業大学 農友会自動車部



創部70周年を迎えて

常磐松自動車倶楽部 会長 福地進而

我が農大自動車部の歴史は戦前に遡り、昭和9年（1934年）11月発行の農大新聞（第百號）の記事に以下の文章が見られます。

「都下各大學に於ては學生有志間に自動車研究熱は年々盛んになり（中略）本學には研究機關無く、単に一部學生で個人的に自動車練習を行ひ、又植民研究會が特に昨夏講習會を開いて運轉練習を行った。その後（中略）研究機關の設置を計画中であった所、去る16日本學消費組合ホールに於て設立を発表して結成を行った。同時に前記學生間で自動車購入資金の調達を行つて自動車一臺を先ず購入した。

（中略）組織を農大自動車部と稍し、三浦助教授を部長に擁し、學三有働君を幹事長、外に数名の幹事を置いてゐる。」外山先輩（昭和12年卒、故人）の思い出話によりますと、「当時15名の部員が拾円まで出し合い、これに補助金と寄付金を合わせ300円の中古のフォードを購入した」とのことです。

その後、戦時色濃い昭和16年にはその名も「報国農友會鍛錬局自動車部」と変え、多くの先輩方が暗い時代に巻き込まれていきました。

戦後はビルマから復員された長田先輩（昭和16年卒、故人）が昭和25年に農大を訪れたときは、新生自動車部も活動を始めていたようです。今日まで70年の歴史を刻んできた自動車部も今春までに500名のOB・OGを輩出し、現在では他校も羨む28名の部員で活動中です。

いまさら申し上げるまでもなく、自動車部は体連のなかでも特異な存在です。それは相撲やレスリングのような格闘技、野球やサッカーに代表される球技、また陸上、水泳といった自己の肉体を存分に駆使する運動部ではなく、文明の利器として最大の発明品といつてもよい自動車と学生スポーツを融合させている点にあります。この70年の間に自動車そのものは飛躍的進化を遂げ、発明当初の単なる人の移動やモノの運搬手段にとどまらず、人間の限りない欲求に答えるべく付加価値を与えられ、今日では景気浮揚の牽引役としての役割を担っています。

このような自動車の進化の歩みとともに、道路事情や環境問題といった社会情勢の劇的な変化により、学生モータースポーツの内容も変革を余儀なくされてきました。戦後まもなく始められた運轉競技大会やその後続く公道を使ったタイムラリーの時代から近年は閉鎖されたサーキットでのジムカーナやダートトライアルといった競技に推移してきています。加えて学生気質の変化、自動車を取り巻く更なる社会情勢の圧力も加わり、自動車部の前途は必ずしも順風満帆とはいえません。このような環境の中、学連や他大学自動車部とも連携し、心身鍛錬とともに他のスポーツでは味わうことの出来ない、より魅力ある学生モータースポーツとして進化発展されるべく、OB組織としても側面から応援していきたいと思ひます。

また、OB会としては俗に言う「同じ釜の飯を食った仲間」を横糸に、全国に散らばる同郷、同業の先輩後輩を縦糸に「農大自動車部」という共通体験を通じて、更に交誼の輪を深めていければと願っております。

東京農業大学農友会自動車部 創立70周年記念誌目次

御挨拶	常磐松自動車倶楽部 会長 福地進而	1	
	東京農業大学農友会自動車部 部長 鈴木伸一	3	
	東京農業大学農友会自動車部 監督 水野政純	4	
	創立70周年記念行事実行委員会 委員長 内藤和徳	5	
	東京農業大学農友会自動車部 平成16年度主将 平井和典	6	
祝 辞	東京農業大学 学長・東京農業大学短期大学部 学長 進士五十八	7	
	全日本学生自動車連盟 会長 馬場昌雄	8	
	全日本学生自動車連盟 副会長・関東支部長 長谷川聰哲	9	
	東京農業大学 副学長・東京農業大学農友会体育団体連合会 会長 蓑茂寿太郎	10	
自動車部10年間の記録			
	平成6年度～平成15年度	11	
思い出の部車			
農大新春ラリーと共に			
	第33回～第38回の記録	57	
競技説明			
	NOW, ON TRYING! NODAI Automobile Club	60	
創部70周年記念式典および祝賀パーティー			65
常磐松自動車倶楽会則			69
東京農業大学農友会自動車部の歩み			71
広告			77

ご挨拶

東京農業大学農友会自動車部 部長 鈴木伸一



農友会自動車部創立70周年を迎えられたことは、誠に喜ばしい次第であります。

一口に70周年とありますが、幾多の困難を乗り越えての今が在るわけです。それぞれの時代における部員の努力の積み重ねは勿論のこと、大学当局はじめ全日本学生自動車連盟そして自動車部の卒業生のご指導ご鞭撻により継続して活動することが出来ていると思います。また、ご父母のご支援ご協力が在ればこそであり感謝申し上げます。

部長に就任した当初は、自動車部が体育会系の団体という認識はあまりありませんでした。モータースポーツといわれれば確かに体育会系ですが、日頃の部活動を観れば、車両の分解修理や組立て等油まみれの姿はまさしく「オタク」の世界です。ところが競技会を初めて観戦して驚きました。私も興奮して思わず武者震いする程でした。それは、全関東学生ジムカーナ選手権大会で、ルールも試合方式も無知のまま行き、出場する選手達の緊張しながらも集中し、イメージトレーニングを行いながら出走順番を待ち、レース本番では運転技術やコース取り等総合したものがタイムに表れることを知り、何ととっても格闘技と同様レースに対する闘争心を強く持ち攻撃的にならなければ好結果が生まれないと感じました。日頃の部活動や学生生活との違いを実感しました。

現在女子が好成績を挙げていますが、中には自分の出場直前まで場内アナウンスを手伝い、好成績を収める凄い度胸の猛者もいます。その彼女達も普段は実にお淑やかなのですから驚きです。

その一方、裏方として多くの部員が協力し良好なチームワークがあるのも事実です。その他連盟や農友会体連の役員として出向し、役割分担を担っている学生もいます。

また、あまり表面に出ない地道な活動として学内での献血活動があります。今まで1年に2回であったのが現在は3回行っています。これは農大生のボランティア精神に負うところ大であります。

今時の学生気質はルールに拘束されるのを嫌う傾向が見受けられますが、幸い最近では5～10名の入部者があるようです。部活動において若干仲良しクラブ的なところもありますが、これも新しい伝統の一つとして部員一同ますます団結し充実した部活動を推進し社会に貢献出来るよう努力することを希望しています。

部長に就任して申し訳なく思うことは、伝統ある東京農大新春ラリーの中断があります。今後復活出来ればと願っています。もう一つは全国交通安全母の会への協力ですが、夏休みの長期に亘るお手伝いのため、これも中断しています。

一方、嬉しいこともありました。東京都によるディーゼル車の排気ガス規制によりマイクロバスとトラックの2台を同時に新車に更新しなければなりませんでしたが、大学当局、農友会、教育後援会、自動車部卒業生および全日本学生自動車連盟等のご援助により無事更新出来たことを感謝申し上げます。



ご挨拶—70周年に思うこと

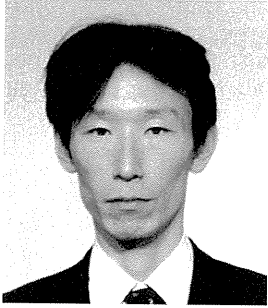
東京農業大学農友会自動車部 監督 水野政純 (S57年度卒)

農大の設立は1891年（明治24年）。その43年後、1934年（昭和9年）に自動車部が設立されました。今回、農大自動車部の70年の歴史について過去の資料を調べまして、あらためて大先輩方の功績を知ることとなり、現在、部を預かる立場としましては、実に多くのヒントを得る事ができました。

戦前の農大は、当時の国策もあり、新天地を求める若者に対して農業開拓の分野での人材育成という大きな役割を果たしており、農友会に植民部というクラブがあったようです。その植民部が自動車部設立以前に整備と運転の両面を教える「自動車講習会」を開催し、やがて教員も含めて当時の先端技術である自動車の研究、さらにはトラクタなどの農業機械の研究について取り組むべきであるとの機運が高まり、1934年に自動車部が設立されたそうです。「設立メンバーの学生数名で資金を調達し部車を購入、組織の名称を農友会自動車部とし、三浦助教授を部長に擁した。」と当時の農大新聞に記載があります。当時の自動車の値段はおそらく大変高価であったはずで、それを学生有志が資金を調達して購入したとのことには驚きを隠せません。設立メンバーであられる有働先輩、渡辺先輩には昭和60年代に一度だけお会いしたことがあります。有働先輩には当時の皮の表紙の運転免許証や、学生服学生帽の上に煙管服を着てフォードと一緒に写っている写真も見せていただきました。設立後は、箱根駅伝で応援団を搬送したり、自動車講習会として新入生歓迎ドライブやフォード工場見学、また、実現されたかどうかは不明ですが、当時の渋谷のキャンパスから用賀農場までの実習生送迎バスの自動車部員による運行の提案、初日に徹夜で渋谷から福島まで走った10日間の東北遠征、さらに戦時色が強くなった1941年には陸軍自動車学校の教官を迎えての走行訓練など、実に多彩な活動を展開されていた模様です。

戦後は、一転して厳しい時代が続いた様で、1949年に再開されたものの、翌年には部車が売却され全学生に資金協力を依頼したこと、その後1955年には自然消滅してしまったものの、1957年には近藤典夫先生を部長に迎え見事復活し、翌1958年には全日本学生自動車連盟（学連）に加盟し、東京—大阪間のレースに参加するための下見に行ったこと、1961年には学連の日本一週ラリーに参加したこと、1966年には武蔵野学生自動車連盟の運転競技大会や他大学のラリーで優勝したこと、などの記事が残っております。

ここまでで、概ね歴史の半分を見てまいりました。これ以降は紙面の都合もあるので割愛いたしますが、自動車部設立の経緯、戦後の復活と活躍の歴史を顧みますと、当時の学生の熱意と工夫の努力を感じます。これは、現代の部活動においても必要不可欠な点であろうと思います。現役部員は、自分のおかれた厳しい状況の中でも、あくまでも自動車部の活動に貪欲に、創意工夫と熱意を持って取り組んで欲しいと思います。そして、後の世の後輩達に誇れる、自分達の新しい歴史を積み重ねていくことを切に願っております。



創部70周年記念式典実行委員会

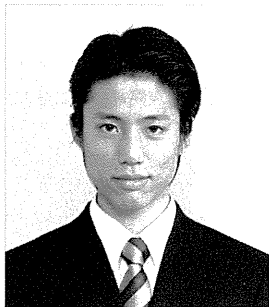
創立70周年記念行事実行委員会 委員長 内藤和徳 (H7年度卒)

まずはじめに、この70年という永きに渡り、毎日、部活動として大勢の人たちがオイルにまみれ、汗を流し、知恵を出し合って続けてきたその成果が、今日の農友会自動車部です。部長先生や監督をはじめその自動車部を取り巻く多くの方が存在し、そうした下支えの上で活動が出来るのも事実です。こうして人と人の繋がりを経て、今年、東京農業大学農友会自動車部は創部70周年を迎えることが出来ました。これまで自動車部に携わったすべての方に感謝を致します。

私が自動車部に入部したのは、平成4年4月のことでした。新入生勧誘の中、当時の中庭に陸友会（オートバイサークル）と並んで自動車部のブースがありました。昔からエンジンの付いているものが好きで、この当時、高校からバイクに乗っていた私は、陸友会と自動車部どちらにするかとても悩みましたが、自動車部を選びました。理由はとても簡単で、“部”であるからです。中学高校と部に所属していたというのがありますが、“部活動”である以上組織的にもしっかりしている事が推察できたからです。ただ、車がいじればいいと考えていたので、どんな活動をしているのかなどは全く知りませんでした。こうして私の自動車部との関係が始まりました。そして4年間は瞬く間に過ぎ去りました。

部活というものは、上級生が下級生を指導し、上級生は教えることにより更に自分を磨いていく。共にその練習に於いて上達していくとても素晴らしいシステムだと思います。部活の“練習”だけでなく文章の書き方や言葉遣い、目上の人への接し方、果ては酒の飲み方に至るまでたくさんのことを学べます。この付き合いが普段の生活の中にも浸透してくると先輩後輩という立場を超え友人としてつきあえるようになる。そして新しい付き合いが始まり、同時にその雰囲気や考えに共感し新しい人が集まる。こうして大勢の人と人を繋いできた部活。ただ残念なことに近年の学生はこうした人の繋がりをあまり快く思わないものも増えてきたことも事実です。結果その繋がりを強要したために部を去ってしまったものもあります。現在の世の中におけるYESかNOかという概念には置き換えることが出来ない世界ではあるので、結果その理解と判断に苦しめてしまったのかもしれない。ただ、多くの人がある考えに共感し、こうして70年という長い年月が過ぎていった事実は我々にとって胸を張って喜ぶべき事とおもいます。そしてこれからも同じように大勢の自動車部員を生み出して仲間を1人でも多く増やしてほしいと思います。

最後になりましたが、この度は実行委員長という大役を務めさせて頂きました。今回の70周年事業にはたくさんの方々にお手伝い頂き、また叱咤激励を受けました。この場をお借りしまして、御礼申し上げます。また、今後とも東京農業大学農友会自動車部と共に歩んで頂きたいと思っております。ありがとうございました。



70周年を迎えるにあたって

東京農業大学農友会自動車部 平成16年度主将 平井和典

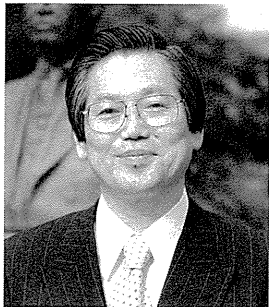
本年度で創部70年を迎えられたことに対し、歴史の重みをひしひしと感じている次第です。この伝統ある自動車部を次世代にもずっと残していくために少しでも多くの道しるべを作る事が私の主将としての努めだと思っています。

現代社会において環境問題が叫ばれている中、自動車部というものは必ずしもよい評価ばかりではありません。騒音や事故など学校側にとっても手がかかる存在ではないかと思えます。また、先生方の中には自動車部に対する印象が芳しくない方が多く、「自動車部員＝授業に出ないで車いじり」というイメージが強く根付いています。

それに対して私たちは献血活動の手伝い、大会成績を残すこと、体連常任員の選出、提出書類の徹底、部室の管理等を行ってきた結果、少しずつではありますが学校側の印象も変わってきていると感じます。さらに自動車部の長期存続のためには更なる改善が必要であり、根本である一人ひとりの行動そのものから改善していくべきだと思います。しかしこれについては人間性の問題であり、形になって現れるまでには多大な時間がかかります。そこで私達は、部の体制を整え徹底し、各自に自動車部員という自覚を持たせることで、部活外においても責任ある行動を求められるのではないかと考えました。

現在では身の回りに車があふれ、誰でも気軽に運転できる時代です。車への憧れというものも当然薄れてきています。そのためか部員を集めること自体が難しくなり、入部したらやめさせないようにとルールも甘くなり、結果として一時は統制が取れにくくなるという事態にもなりました。そこで私達は部員数の維持よりも部活動としての存在意義を重視した運営をしています。部としてきちんと動いていれば、厳しいルールが存在するのは当然であり、しかし充実した時間も同時に生まれ、部員数の減少にはつながらないのではないのでしょうか。

監督も代わり、この1、2年が自動車部として大事な年となってきています。OBの皆様方が部室や大会に足を運んでくださった際には、現役部員に一言アドバイスや昔話でもしていただけたら幸いです。このことが部の歴史の重みを実感するよい機会であり、部活動の活動にも反映してきます。これからもご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



農友会自動車部創部70周年をお祝いして

東京農業大学 学長・東京農業大学短期大学部 学長 進士五十八

東京農業大学農友会自動車部創部70周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

わが東京農業大学は、創設者榎本武揚先生から数えて113年を迎えることとなりますが、自動車部は昭和9年に創設されました。今日の輝かしい自動車部は70年にわたる先輩諸兄がその時その時を必死に生きたひとつひとつの成果の蓄積が今日に引き継がれた結果であり、また近藤典生（故人）、小林正、淡谷恭蔵（故人）など歴代部長並びに現部長の鈴木伸一教授のご尽力、ご指導の賜物と思えます。

本学は、豊かな人間形成を図る立場から、クラブ活動を教育の一環として推奨しています。クラブ活動は勉学を支え、よき友を得、大学生活をより充実させるものと信じています。スポーツの世界では、結果がすべてという面もありますが「質実剛健」「独立不羈」の農大精神をもって目標に向かい、自己研鑽を積み重ねる姿も重要です。スポーツは人間形成に及ぼす大きな力だけでなく、多くの人々に感動を与える力があります。自動車部の活躍が在校生と卒業生と母校の絆をより一層強いものに育ててくれるものと期待しています。

自動車は人が生活をしていく上で必要不可欠なものとなってきていますが、排気ガスなどの環境問題やエネルギー問題により、ガソリンや軽油を燃料とするものから、ハイブリッドカーやソーラーカー、電気自動車といった変化の時代に入り、コンピュータによる機械のコントロール、人工衛星によるナビゲーションシステムなど技術や性能を向上させており、今後も進化を続けていくことはまちがいありません。これからは、自動車を動かす人間自身が、その基礎となる知識の修得、普及、運転技術の向上に努めなければならなくなるでしょう。勉学とクラブ活動を両立させながら、より充実したキャンパスライフのために、部長、監督、師範、コーチの指導のもと、80周年、100年と益々発展されますよう期待し、祝辞といたします。



創部70周年を祝って

全日本学生自動車連盟 会長 馬場昌雄

何よりもまず、貴自動車部創立70周年との事、誠に御目出度く心よりお祝い申し上げます。

70年と言う事は、人の場合、古来稀なりとしお祝いをするのが常であります。近年はそれほど希とは言えないようであります。しかしながら、大学の自動車部が設立以来70年もの間活動を続けると言う事は、まさに古希と呼び、祝うに値する事であると考えます。

大学当局のみならず、貴自動車部の諸先輩、現役の学生部員の努力なしには達成できないことであり、感服に耐えません。

企業組織の目的は利益の追求であるとよく言われておりますが、これは大きな間違いであります。バブル経済崩壊後の多くの企業がどのようになったかを考えれば、容易に理解出来ることです。今日も生き残り、健全に活動を続けている企業も多くあります。つまり、組織の本当の目的は、存続と発展であり、利益の追求はその手段にしか過ぎません。常に存続を考え、社会と調和した発展に向けて努力する組織こそ、どのような時代にも生き残れるのであります。継続は力なり、とはまさに至言であります。

それでは、大学の自動車部という組織はどう考えたらよいのでしょうか。私見では有りますが、存続と発展こそ目的であります。競技会での優勝は手段であります。競技会での活躍は、大学の名誉であり、先輩諸氏の喜びであり、達成した現役部員に、更なる努力への力を与えます。この様な事が存続と発展に繋がり、創部70周年を迎える事になるのです。わが国の自動車事情を考えると、これからの大学自動車部は、社会環境との調和が、大きな課題となるでしょう。わが学生自動車連盟もこのような責務に取り組み、設立50年を超えたこの組織を存続させ発展させていく心算であります。連盟と共に存続・発展を継続してきた貴自動車部が、これからもわが連盟とともに歩み続けることを、また、大学当局、先輩諸氏のますますのご尽力を心よりお願いして、お祝いの挨拶とさせていただきます。



東京農業大学自動車部70周年に寄せて

全日本学生自動車連盟 副会長・関東支部長 長谷川聰哲

1931年関東の大学10大学によるモーター連盟の活動が始まり、それを前後して東京農業大学自動車部が創部され、現在に至るまでその組織を引き継いできたことに敬意を表します。貴大学ならではの企画で長らく続いていた「農大新春ラリー」は、その鮮烈な体験を多くの参加者の記憶に深く刻まれ、その歴史的一幕が連盟関係者の語り草にもなっています。

創部当時の社会が自動車にどのような関わりを持っていたかを紐解けば、1909年にアメリカで一般市民が購入できるT型フォードが売り出され、1925年には360ドルに値下げされたこの自動車は、その年73万台の販売記録を達成、その後のプロトタイプとして一世を風靡していました。1931年にはA型フォードが市場に投入され、時代の寵児となったことは今日まで語り継がれています。世界のモータリゼーションの普及、発展の初期段階にあたるまさにこの時期、主要大学と共に東京農業大学自動車部も創部したことになります。70年前のフォードA型の自動車が、都立江戸博物館には陳列されており、これを目の当たりにした時、感慨深いものがありました。

戦前の自動車部の活動は、戦争に傾斜していく背景に影響を受けながらも、モーター・スポーツとしての意義を追究していこうとの決意がその当時の史料から伝わってきます。

戦後の自動車部は、箱根駅伝の伴走車として活動してきたことが、多くの方々には強く記憶に残っておりますが、各大学の活動の場を提供することになるのが、全日本学生自動車連盟の創立によってのことです。全日本学生自動車連盟は、こうした個々の大学の自動車部や関東、関西地域の自動車部を束ねて、戦後7年目というまだまだ戦争の傷跡が癒えぬ1952年に創立いたしました。

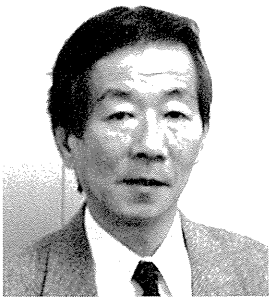
連盟の活動も、多くの課題を抱えながらも、ジムカーナ、ダートトライアル、ラリー、フィギュア、などの競技大会を運営しながら、現在では112校の加盟校が参加する組織となるまで発展してきました。

最近では、時代の要請を受け留め、本年第八回を迎えた軽自動車耐久レースは、OBの参加もできる一般の部の企画もあって、賑わいを見せています。また、ハイブリッドカーを利用したエコカー・レースも、読売新聞社、トヨタ、ダイハツなどの企業の協賛の下に、本年、四回目の大会を開催いたします。連盟として、環境問題に取り組むひとつの姿勢として、自負しております。さらに、昨年10月から始まった首都圏地域でのディーゼル車の排ガス規制では、自動車部活動をも直撃した問題であります。加盟校を持つ大学が予算上の特別措置・配慮をしていただけるよう連盟としてお願いの文章をお出しいたしました。

そのほか諸々の活動を進める中で、加盟校から選ばれた学生諸君により構成される常任委員諸君は、一年を通じて並々ならない精力を投入してくれています。慢性的ともいえる厳しい財政状況の中で、連盟の経済的基盤をどうしたら安定させ、健全に発展させることができるのか、支部や全日本の理事の皆さんと法人化を視野に入れた検討も開始しています。

加盟校の各部にあっても、自動車部の学生諸君は、自動車整備の油にまみれながら生活する一方で、交通遺児対策募金活動や、交通安全キャンペーン、環境問題に関連して、自動車中古部品業界との協力などの活動など、学生たちはその時代の要請を鋭敏に受けとめて活動をし続けています。こうした心身ともに鍛えた自動車部の学生は、卒業後、皆様のように社会の多くの場で活躍されていることは、私たちにとっての誇りです。卒業後のOBによる、現役の学生たちへの技術や、組織の運営、経済的な支援など、他のスポーツの部活動に劣らない現役との関わりが、競技大会などの運営には欠かすことのできない存在となっております。

連盟の競技では、東京農業大学の自動車部は伝統を背負ってこれまで多くの成果を挙げております。現在の自動車の社会的な普及の中で、自動車部の部員数の減少は、全国的な現象にあります。しかし、そのような環境変化の中でも、熱心に活動する部員数を誇り、近年の東京農業大学自動車部の競技における成績は他大学にとって、羨ましい模範として大きな励みを与えています。今後も現役部員、OBの方々が協力し、連盟において益々精力的に活躍されることを期待し、創部70周年への祝辞とさせていただきます。



自動車部の創部70周年をお祝いして

東京農業大学 副学長・東京農業大学農友会体育団体連合会 会長 蓑茂寿太郎

自動車部の創部70年を心からお祝い申し上げます。体育団体連合会30部の中で、比較的長い歴史を持ち、現在最も活躍している部の一つが、自動車部であります。東京農大は、113年の歴史を持つ伝統ある大学です。自動車部が創設された1934年は、農大創立43年目の年でした。どなたの発案だったのか？ この当時、幾つの大学に自動車部があったのか？ が気になるところですが、それらについては、きっとこの記念誌の中に答えがあると思います。1934年は第二次世界大戦前のことで、日本の自動車の普及からみるとかなり早く、世界で自動車が大衆化する兆しははっきりして、わずか15年後のことです。と言うのはフォード自動車がベルトコンベアーの流れ作業のよる T型フォードの生産をしたのが第一次世界大戦後の1919年だからです。不勉強で自動車競技の詳細を知りませんが、私は学生の頃、農大新春ラリーを主催していることで、正月の2日、3日の箱根駅伝に続いて、大変興味を持っていました。自動車部の活動をいつも気にしている一人として、日本赤十字の献血運動に協力していることをこの挨拶で触れたいと思います。また、去年は、ディーゼル自動車の都内走行が規制され、車の買い替えに疾走されていた部長、監督、OB諸兄弟チームワークの良さが印象的です。これが現在の東京農大自動車部の隆盛を支えています。

何はともあれ、自動車部関係の皆様には、この節目の年を捉えて、過去の70年をしっかりと辿り、そして、これからの「未来・70周年」を展望していただきたく希望いたします。70年後の自動車は日本メーカーがやはり主流か、自動車社会、大学界、東京農大、そして東京農大自動車部は、どのような姿になっているのでしょうか。一寸想像するだけで楽しくなります。馬車交通の長い時代を経てきた欧米社会と、籠交通からいきなり自動車交通に転換した日本とでは、道路網に見られる都市の形態が違います。だから文明開化直後の東京では、日本人発案の人力車が大流行しました。そのような文化の視点まで考慮にいった、自動車部の活躍が未来永劫続くことを祈念申し上げ、挨拶といたします。

自動車部 10年間の記録

平成6年度
）
平成15年度

平成6(1994)年度



主将 土屋幸康

はやいものであれから10年が経ちました。

10年前の私は夏合宿で某後輩のNvをしていたところ、東北道で事故を起こしてしまったため、坊主頭で前回の60周年記念式典に出席したものでした。

“目指せ！日本一の自動車部”のキャッチフレーズ(?)で始まった平成6年度の自動車部も、とにかく忙しい1年間だったように記憶しています。

新入部員の獲得からはじまり、各競技の練習会・試合、60周年式典や新春ラリーと、休むことなく過ぎ行く日々の中で主将としてどうあるべきか、ずいぶんと悩んだものでした。

主将としてはお世辞にも優秀とはいえず、いろいろなこともありましたが、何事にも全員が一丸となって頑張り、まとまりのある有意義な部活動を送ることができたように思います。

現役当時、いろいろな面でお世話になった部長先生。監督、コーチをはじめとするOBの方々や一緒にごんばってきた同輩、後輩たちにこの場をかりて改めて感謝します。そして、いつまでも付き合える仲間を与えてくれた農友会自動車部にも。

平成6年度役員

主将	土屋幸康(林4)	学連常任委員会	横山並樹(開3)
副将・代表学連	篠原良平(開4)	主務・フィギア	饗場全(醸3)
OB会担当	瀬川貴志(畜4)	会計・車輛	内藤和徳(農3)
免許指導員	平井純一(林4)	書記・女子責任者	小野塚裕美(醸3)
ダートラ・ジムカーナ相談役	双石正仁(農4)	ダートラ・ジムカーナ	永山聡(工3)
幹事・ラリー	岡崎康友(農3)		



平成6年度試合結果

〈全関東学生自動車運転競技選手権大会〉

3月27日(日)(於:サマーランド)

【男子団体の部】(16位中)

2位 東京農業大学

篠原良平(開発4年)

平井純一(林学4年)

双石正仁(工学4年)

内藤和徳(農学3年)

【男子個人の部】

普通乗用の部 2位 平井純一(林学4年)

普通貨物の部 3位 篠原良平(開発4年)

小型貨物の部 7位 双石正仁(工学4年)

小型乗用の部 2位 内藤和徳(農学3年)

【女子団体の部】(7位中)

4位 東京農業大学

小野塚裕美(醸造3年)

柳澤麻美(短栄2年)

斉藤貴子(林学2年)

【女子個人の部】

普通乗用の部 9位 小野塚裕美(醸造3年)

小型貨物の部 7位 柳澤麻美(短栄2年)

小型乗用の部 6位 斉藤貴子(林学2年)

〈全関東学生ジムカーナ選手権大会〉

5月4日(水)

【男子団体の部】(32台中)

優勝 東京農業大学(EP71T)

平井純一(林学4年)

双石正仁(工学4年)

篠原良平(開発4年)

【男子個人の部】(96人中)

優勝 平井純一(林学4年) 1'00"26

5位 双石正仁(工学4年) 1'02"69

9位 篠原良平(開発4年) 1'03"34

(女子個人の部)

6位 小野塚裕美(醸造3年) 1'10"58

〈全日本学生ダートトライアル大会〉

6月19日(日)

【男子団体の部】(29台中)

優勝 東京農業大学(EP71T)

双石正仁(工学4年)

篠原良平(開発4年)

平井純一(林学4年) Total 4'35"54

【男子個人の部】(86人中)

4位 平井純一(林学4年) 1'31"35

8位 篠原良平(開発4年) 1'32"08

9位 双石正仁(工学4年) 1'32"11

〈全関東学生ダートトライアル選手権大会〉

8月3日(水)(於:丸和オートランド那須)

【男子団体の部】(23台中)

2位 東京農業大学(EP71T)

双石正仁(工学4年)

篠原良平(開発4年)

平井純一(林学4年) Total 4'18"62

【男子個人の部】(78人中)

5位 平井純一(林学4年) 1'25"44

6位 篠原良平(工学4年) 1'26"03

11位 双石正仁(工学4年) 1'27"15

〈全日本学生ジムカーナ選手権大会〉

8月27日(土)~28日(日)(於:鈴鹿)

【男子団体の部】(17台中)

準優勝 東京農業大学(EP71T)

双石正仁(工学4年)

篠原良平(開発4年)

平井純一(林学4年) Total 3'39"08

【男子個人の部】(51人中)

準優勝 平井純一(林学4年) 1'12"41

5位 篠原良平(工学4年) 1'12"93

7位 双石正仁(工学4年) 1'13"74

【女子団体の部】(12台中)

4位 東京農業大学(EF7)

小野塚裕美(醸造3年)

柳澤麻美(短栄2年)

【女子個人の部】(29人中)

6位 小野塚裕美(醸造3年) 1'21"22

21位 柳澤麻美(短栄2年) 1'25"43

〈カレッジカップ'94〉

8月29日(月)~30日(火)

【男子部車の部】

2回戦敗退 東京農業大学

横山並樹(開発3年)

饗場全(醸造3年)

有附仁(農学2年)

【女子部車の部】

3位 東京農業大学

柳澤麻美(短栄2年)

小野塚裕美(醸造3年)

〈全関東学生ラリー選手権大会〉

10月22日(土)~23日(日)(於:埼玉県内150km以下)

【男子団体の部】(19台中)

6位 東京農業大学

【プライベートの部】(6台中)

4位 東京農業大学

〈全日本学生自動車運転競技大会〉

11月20日(日)(於:東京サマーランド)

【男子団体の部】(21台中)

8位 東京農業大学

篠原良平(工学4年)

平井純一(林学4年)

双石正仁(工学4年)

内藤和徳(農学3年)

【男子個人の部】

普通乗用の部 優勝 平井純一(林学4年)

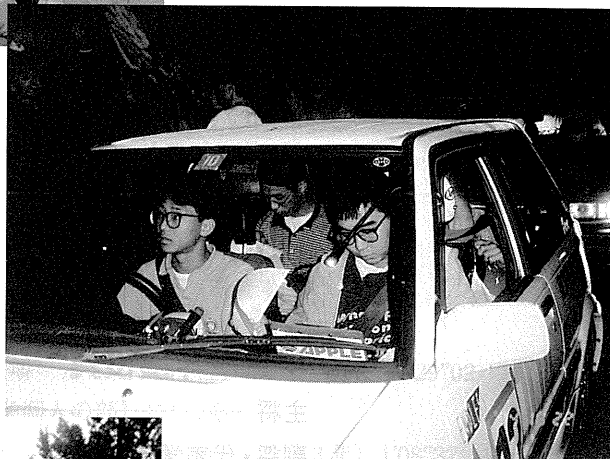
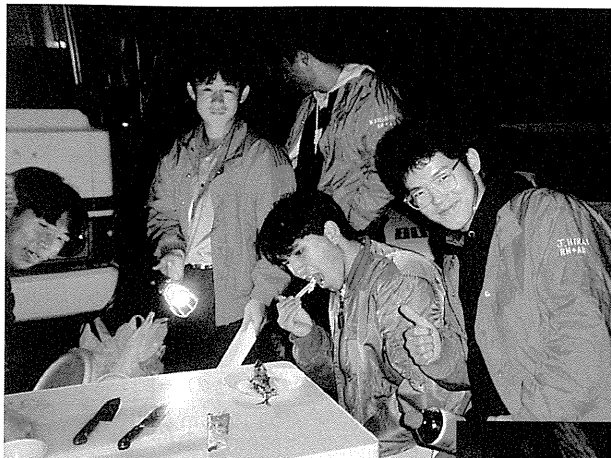
普通貨物の部 18位 篠原良平(工学4年)

小型貨物の部 6位 双石正仁(工学4年)

小型乗用の部 準優勝 内藤和徳(農学3年)

平成6年度
卒業生の4年間





平成7(1995)年度



主将 岡崎康友

理不尽な生活を強いられながらも何とか4年目に突入した自動車部での活動。気が付いたら主将に任命され、それまでを改善するどころか、今まで以上の理不尽さを後輩達に強いてきた気がします。(後輩達、ゴメンナサイ)

でも、その甲斐あってか全関ラリー優勝をはじめ、スピード競技等々でも好成績を収め、全関杯を獲得することができました。大学にもその活動が評価され、農友会南賞を授与されました。自動車部にとって初の快挙だったと記憶しています。

部室にあるひととき目立つ大きなカップは、そのときの栄光です。今でも、結婚式等の祝い事で活躍しています。

1年生時から大変なことばかり(大変なことの一例:合宿先で裸で走り回されたこと。東名高速でコースターが動かなくなり、ただただ呆然としていたこと。合宿中、極度の緊張感のためお茶を掛け合う先輩がいたこと。いるわけないのに、ハマグリを捕ってこいと言われて、海に潜らされたこと。飲んだあと、体中に落書き多数。強制連行、拉致数知れず。等々)でしたが、今となっては社会で大きく役立っています。良い仲間と良い先輩、後輩に恵まれた自動車部での4年間は、一生の大切な思い出です。とりわけ主将としての1年間は、今の自分がある大きな礎と感じています。

平成7年度役員

主将	岡崎康友(農4)	主務・書記	西内暢善(農3)
副将・代表学連	饗場全(醸4)	会計・フィギア	増元寿(蓄3)
学連常任委員会	横山並樹(開4)	OB会担当・ラリー	田村芳広(農3)
整備指導	内藤和徳(農4)	学連常任委員	有附仁(農3)
運転指導	小野塚裕美(醸4)	ダートラ・ジムカーナ	比嘉裕幸(林3)
幹事・車輛・代表学連補佐	塚田昌樹(開3)	ダートラ・ジムカーナ	伊藤憲秀(環3)



平成7年度試合結果

〈全関東自動車運転競技大会〉

3月26日(日)(於:サマーランド)

【男子団体の部】(16台中)

10位 東京農業大学

岡崎 康 友(農学4年)

饗 場 全(醸造4年)

比 嘉 裕 幸(林学3年)

内 藤 和 徳(農学4年)

【男子個人の部】

普通貨物の部 3位 岡崎 康 友(農学4年)

普通乗用の部 8位 饗 場 全(醸造4年)

小型貨物の部 5位 比 嘉 裕 幸(林学3年)

小型乗用の部 D.O 内 藤 和 徳(農学4年)

【女子個人の部】

普通乗用の部 準優勝 小野塚 裕 美(醸造4年)

小型乗用の部 D.O 小 柏 芳(短栄2年)

〈全関東学生ジムカーナ選手権大会〉

5月4日(木)(於:浅間台スポーツランド)

【男子団体の部】(30台中)

5位 東京農業大学(EP71T)

岡崎 康 友(農学4年)

饗 場 全(醸造4年)

田 村 芳 広(農学3年) Total 3'08"15

【男子個人の部】(90人中)

3位 田 村 芳 広(農学3年) 1'01"22

24位 岡崎 康 友(農学4年) 1'03"29

28位 饗 場 全(醸造4年) 1'03"64

【女子個人の部】(15人中)

準優勝 小野塚 裕 美(醸造4年) 1'04"91

〈全関東学生ダートトライアル選手権大会〉

6月18日(日)(於:丸和オートランド那須)

【男子団体の部】(25台中)

6位 東京農業大学(EP71T)

田 村 芳 広(農学3年)

比 嘉 裕 幸(林学3年)

増 元 寿(畜産3年) Total 4'21"94

【男子個人の部】(80人中)

8位 田 村 芳 広(農学3年) 1'25"22

19位 比 嘉 裕 幸(林学3年) 1'26"95

37位 増 元 寿(畜産3年) 1'29"77

【女子団体の部】(7台中)

6位 東京農業大学(EP71)

小野塚 裕 美(醸造4年)

小 柏 芳(短栄2年) Total 3'16"00

【女子個人の部】(15人中)

3位 小野塚 裕 美(醸造4年) 1'31"52

13位 小 柏 芳(短栄2年) 1'44"58

〈全日本学生ジムカーナ選手権大会〉

8月5日(土)~6(日)(於:鈴鹿サーキット南コース)

【男子団体の部】(23台中)

16位 東京農業大学(EP71T)

横 山 並 樹(開発4年)

田 村 芳 広(農学3年)

増 元 寿(畜産3年) Total 3'29"02

【男子個人の部】(71人中)

27位 田 村 芳 広(農学3年) 1'08"32

41位 横 山 並 樹(開発4年) 1'09"52

59位 増 元 寿(畜産3年) 1'11"18

〈全日本学生ダートトライアル大会〉

8月27日(日)(於:広島県テクニックステージタカタ〔TESTA〕)

【男子団体の部】

リタイア 東京農業大学

岡崎 康 友(農学4年)

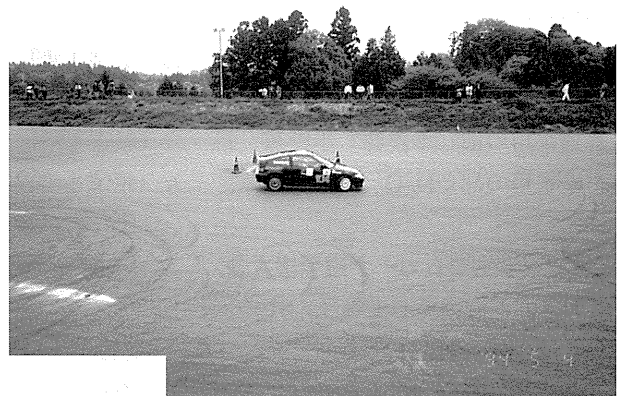
田 村 芳 広(農学3年)

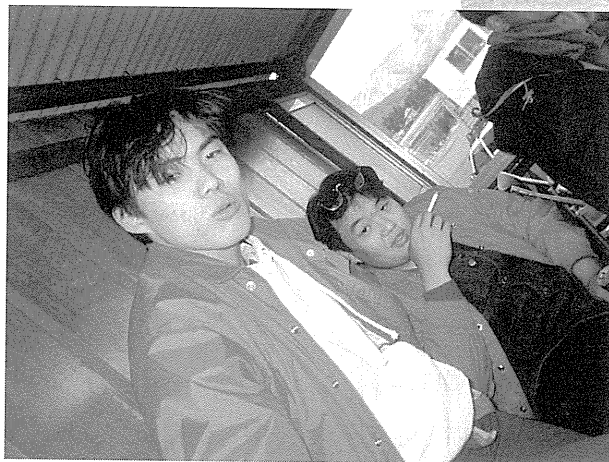
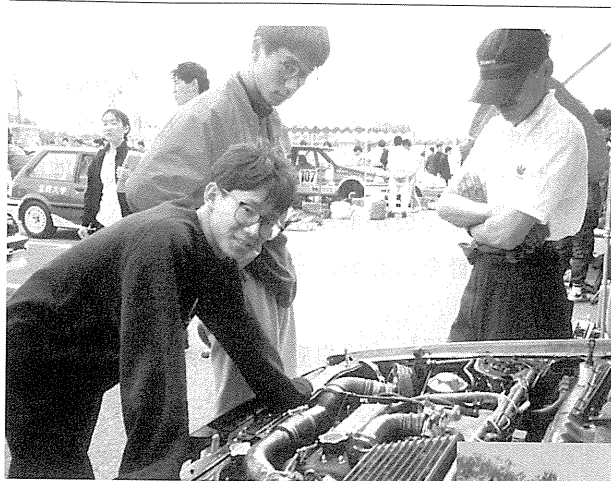
増 元 寿(畜産3年)

【男子個人の部】(71人中)

68位 岡崎 康 友(農学4年) 1'46"22

平成7年度
卒業生の4年間





平成8(1996)年度



主将 比嘉裕幸

主将に任命されてからの1年は長いようで短かったように思います。

前年は全関杯獲得、大学からも農友会南賞の受賞と好成績だった為、流れは全関2連覇さらには全日本獲得という雰囲気の中でスタートしました。全関フィギア、ジムカーナと一致団結で頑張ったのですが、世間はそんなに甘くなく、獲得することができず、部員みんなできやすい思いをした記憶がよみがえってきます。しかし、一致団結し1年間やってこれたのは部長先生、監督をはじめ、先輩方にいろいろご指導いただけたからだと思っております。

卒業してもう8年たちましたが、自動車部ですごした4年間は大切な思い出です。厳しいこと、悔しいことなどいろいろありましたが、よい仲間、よい先輩に恵まれ、うれしく思っております。

この貴重な体験をこれからの人生にいかして行きたいと思っております。

平成8年度役員

主将	比嘉裕幸(林4)	学連常任委員	有附 仁(農4)
副将・OB会担当	田村芳広(農4)	庶務	伊藤憲秀(環4)
幹事相談役・庶務	塚田昌樹(開4)	幹事・ラリー	久保憲一(農3)
会計・車輛	増元 寿(蓄4)	主務・フィギア	佐野永哲(農3)
車輛・運行管理責任者	西内暢善(農4)	ダートラ・ジムカーナ	岡澤雅浩(経3)



平成8年度試合結果

〈全関東学生自動車運転競技選手権大会〉

3月24日(日)(於:東京サマーランド西駐車場)

【男子団体の部】(10位中)

3位 東京農業大学

塚田 昌 樹(開発4年)

田村 芳 広(農学4年)

比嘉 裕 幸(林学4年)

岡澤 雅 浩(経済3年)

【男子個人の部】

普通乗用の部 優勝 田村 芳 広(農学4年)

普通貨物の部 2位 塚田 昌 樹(開発4年)

小型貨物の部 3位 比嘉 裕 幸(林学4年)

小型乗用の部 7位 岡澤 雅 浩(経済3年)

【女子個人の部】

普通乗用の部 四輪脱 吉 武 姿 朋(造園2年)

〈全関東学生ジムカーナ選手権大会〉

5月5日(日)(於:浅間台スポーツランド)

【男子団体の部】(31台中)

18位 東京農業大学(EP71T)

塚田 昌 樹(開発4年)

田村 芳 広(農学4年)

佐野 永 哲(農学3年) Total 3'25"36

【男子個人の部】(93人中)

12位 塚田 昌 樹(開発4年) 1'02"09

56位 田村 芳 広(農学4年) 1'08"88

74位 佐野 永 哲(農学3年) 1'14"39

〈全関東学生ダートトライアル選手権大会〉

6月23日(日)(於:丸和オートランド那須)

【男子団体の部】(28台中)

5位 東京農業大学(EP71T)

比嘉 裕 幸(林学4年)

田村 芳 広(農学4年)

佐野 永 哲(農学3年) Total 4'22"36

【男子個人の部】(72人中)

9位 比嘉 裕 幸(林学4年) 1'27"35

10位 田村 芳 広(農学3年) 1'27"48

13位 佐野 永 哲(農学3年) 1'27"53

〈全日本学生ダートトライアル大会〉

8月17,18日(土、日)(於:テクニックステージタカダ)

【男子団体の部】(24台中)

11位 東京農業大学(EP71T)

田村 芳 広(農学4年)

比嘉 裕 幸(林学4年)

有附 仁(農学4年) Total 5'24"23

【男子個人の部】(71人中)

34位 有附 仁(農学4年) 1'47"46

38位 田村 芳 広(農学4年) 1'48"04

43位 比嘉 裕 幸(林学4年) 1'48"73

〈全関東学生ラリー選手権大会〉

10月5~6日(土、日)(於:埼玉県内150km)

【男子団体の部】(17台中)

8位 1st & 2nd (EP71T)

田村 芳 広(農学4年)

久保 憲 一(農学3年)

〈カレッジカップ'96〉

11月4日(月)(於:メーハイランドSSパーク)[福島]

【男子部車の部】(60台中)

6位 東京農業大学(CR-X)

市原 浩 平(経済2年)

倉本 武 志(短環1年) Total 80"74

21位 東京農業大学(シティ)

久保 憲 一(農学3年)

佐野 永 哲(農学3年) Total 82"06

27位 東京農業大学(スターレット)

有附 仁(農学4年)

佐藤 孝 志(経済1年) Total 83"51

平成8年度
卒業生の4年間





平成9(1997)年度



主将 久保憲一

私が主将になりましたのはしっかり者であったというよりも4年生が私含めて2人しかおらずどちらがなってもおかしくない中偶然にも私が選ばれたものだと考えております。

この一年間は同期の佐野、3年生の市原、吉武の4人での運営という厳しい活動の中、2年生が多くいてくれたおかげで成績はともかくはじめのある活動ができたように思います。

また先輩方々が積み上げてきた自動車部と後輩にたくす自動車部について考えさせられた1年であったように思います。

そんな中、淡谷先生、村田監督、OB、OGの先輩方々からいろんな場面でご指導いただきました。ありがとうございます。

卒業してすでもう7～8年たちますが主将としての一年というよりも自動車部での4年間の経験をこれからの生活の中で生かしていきたいと思います。

平成9年度役員

主将———久保憲一(農4) 幹事・会計———市原浩平(経3)
主務・車輛・副会計・代表学連——佐野永哲(農4) 書記・OB会担当——吉武姿朋(造3)



平成9年度試合結果

〈全関東学生自動車運転競技選手権大会〉

3月20日(木)(於:東京サマーランド)

【男子団体の部】(14位中)

6位 東京農業大学

安藤 哲也(畜産2年)

市原 浩平(経済3年)

佐野 永哲(農学4年)

佐藤 孝志(経済2年)

【男子個人の部】

普通貨物の部 2位 安藤 哲也(畜産2年)

小型貨物の部 6位 市原 浩平(経済3年)

小型乗用の部 8位 佐野 永哲(農学4年)

〈全関東学生ジムカーナ選手権大会〉

5月3日(日)(於:浅間台スポーツランド)

【男子団体の部】(28台中)

7位 東京農業大学(EF7)

佐野 永哲(農学4年)

市原 浩平(経済3年)

倉本 武志(短環2年) Total 3'46"23

【男子個人の部】(78人中)

14位 佐野 永哲(農学4年) 1'13"66

24位 市原 浩平(経済3年) 1'14"84

45位 倉本 武志(短環2年) 1'18"58

【女子団体の部】(6台中)

優勝 東京農業大学(EF7)

木田 英恵(造園2年)

吉武 姿朋(造園4年) Total 2'55"56

【女子個人の部】(10人中)

3位 木田 英恵(造園2年) 1'27"41

4位 吉武 姿朋(造園4年) 1'25"15

〈全関東学生ダートトライアル選手権大会〉

6月15日(日)(於:丸和オートランド那須)

【男子団体の部】(26台中)

7位 東京農業大学(EP82T)

久保 憲一(農学4年)

佐野 永哲(農学4年)

市原 浩平(経済3年) Total 4'27"26

【男子個人の部】(74人中)

7位 佐野 永哲(農学4年) 1'25"46

30位 市原 浩平(経済3年) 1'30"14

38位 久保 憲一(農学4年) 1'31"66

〈全関東学生ラリー選手権大会〉

【男子の部】(13台中)

13位 東京農業大学(K10改)

佐野 永哲(農学4年)

市原 浩平(経済3年)

【女子の部】(2台中)

準優勝 東京農業大学(C51A)

吉武 姿朋(造園4年)

木田 英恵(造園2年)

お悔やみ

謹んでご冥福をお祈りいたします。

1997年1月21日(火) 元部長 近藤 典生先生

平成9年度
卒業生の4年間





平成10(1998)年度



主将 市原浩平

卒業して、6年目になりますが、さすがに自動車部時代のことが遠い記憶となりつつあります。

私の代は、2年生の頃から私一人しかおらず、数年前から主将となることがわかっていましたので、選ばれたというものではありませんでした。

ですから、正直に言うと、“主将だ”という特別な思いはなく、勢いのままに4年生になったといった感じでした。

そのような状況でしたので、必然的に下級生には、かなり頼らざるを得ない状況でした。が、幸いのこと、下級生には、数にも人間的にも大変恵まれ……いや、人間的には少々問題あり?……どうにか、今までの活動を縮小することなく、1年間を過ごすことが出来ました。

それどころか、全日総合杯3位という成績をおさめることが出来たことは、私自信の実力の証であると自負するところであります。……というのは、冗談で、個々としては決してしゃばらない、内に秘めるタイプの多かった後輩ばかりでしたが、今考えてみれば、しゃばる部分は、私に任せて、逆に、彼らに上手く操られていたような気がします。そんな、女房のような後輩たちの存在に恵まれたことが、結果につながったと思っております。

また、淡谷先生や村田監督にも、4年生が私しかいなかったということで、かなり大目に見て頂いて、自由にやらせて頂いた部分も多くあり、また、3年生の指導に関しては、私の知らないところでかなり助けられていたと思っています。本当に有難うございました。

とくに、淡谷先生におかれましては、長年にわたり勤めてられました自動車部部长としての最後の年に、主将としての立場とともに過ごさせて頂き、また、ともに自動車部を卒業させて頂いたことは、きっと歴代の主将の方々とは少し違った強いつながりを感じられ、私の中では特別な思い出です。

私も来年には30歳という、世間では、もう“オッサン”と呼ばれてしまう節目の年をむかえようとしています。

自動車部も80周年にむかい、新たに走り出しますが、私は、社会人としてはもっとも重要と思われる、この先10年を、自動車部に負けぬよう“突っ走りきりたい”と思います。

平成10年度役員

主将——市原浩平(経4) 代表学連——山村浩一(経3)
書記——細道一善(蓄3) OB会担当——富所芳行(栄2)



平成10年度試合結果

〈全日本学生ジムカーナ選手権大会〉

8月9日(日)(於：鈴鹿サーキット南コース)

【男子団体の部】

5位 東京農業大学

佐藤孝志(経済3年)

市原浩平(経済4年)

斉藤隆文(林学2年)

〈全日本学生ダートトライアル選手権大会〉

8月23日(日)(於：テクニックステージタカタ)

【男子団体の部】

5位 東京農業大学

安藤哲也(畜産3年)

佐藤孝志(経済3年)

市原浩平(経済3年)

〈全日本学生自動車運転競技選手権大会〉

11月22日(日)(於：東京サマーランド)

【男子団体の部】(15台中)

6位 東京農業大学

市原浩平(経済4年)

富所芳行(栄養3年)

佐藤孝志(経済3年)

田中敏文(経済3年)

《男子個人の部》

【普通貨物の部】[三菱 ファイター]

8位 市原浩平(経済4年)

【普通乗用の部】[トヨタ マークII]

3位 富所芳行(栄養3年)

【小型貨物の部】[いすゞ エルフ]

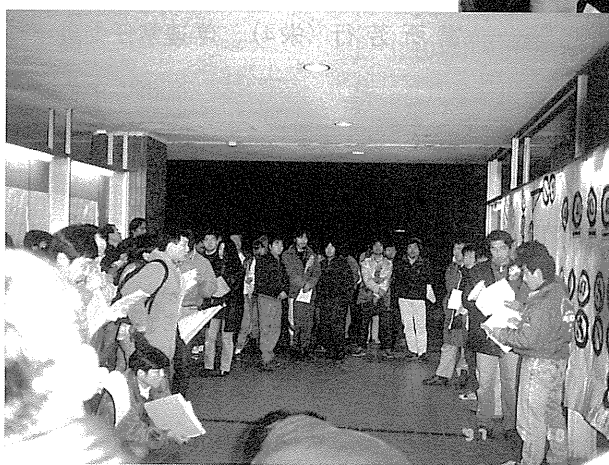
準優勝 佐藤孝志(経済3年)

【小型乗用の部】[トヨタ スターレット]

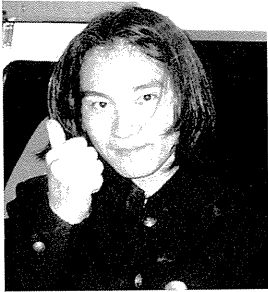
7位 田中敏文(経済3年)

平成10年度
卒業生の4年間





平成11(1999)年度



主将 細道一善

淡谷恭蔵先生が退官され、新しい部長に鈴木伸一先生を迎えての「新生自動車部」最初の主将となり、多くの変化を感じた一年間でありました。鈴木先生は部活動の内容を把握する為とは言え、予定の許す限り各大会に足を運んで下さいました。また、当時の自動車部は部員のほとんどが四年生という、まさに存続の危機であり、立て直しの年でもありました。そのため、新部員獲得のために「大会の観戦ツアー」など新たな企画も取り入れ、通年での新部員の勧誘を行ったと思います。特に、2、3年生が次年度への危機感を持っていたこともあってか、勧誘の成果、例年より多くの新部員を迎えることができ、ほっとしたのを覚えています（それでもまだ少ないと監督、コーチからのプレッシャーは強かったのも）。でも、幹部交代時は2、3年生の数より役職が多くて次の年は大変だったと思います。僕の年は同期が多かったので、何かと助かってましたから。よく、辛かったこともいい思い出になるといいますが、同期が少なくて辛かった場合はいい思い出にならないような気がします。そういう意味では僕は恵まれてました（書ききれません）。

平成11年度役員

主将	細道一善(蓄4)	副会計・フィギア	鈴木一樹(工4)
副将・ダートラ・ジムカーナ	佐藤孝志(経4)	書記	田中敏文(経4)
主務	加賀雄介(醸4)	代表学連・整備指導	安藤哲也(蓄4)
車輛	山村浩一(経4)	幹事・会計・ラリー	行木達哉(蓄3)
OB会担当	富所芳行(栄4)	学連常任委員	田中秀典(経3)



平成11年度試合結果

〈全関東学生ジムカーナ選手権大会〉

4月24日(日)(於:浅間台スポーツランド)

【男子団体の部】(26台中)

22位 東京農業大学(EF7)

富所 芳行(栄養4年)

鈴木 一樹(工学4年)

佐藤 孝志(経済4年) Total 3'51"51

【男子個人の部】(80人中)

準優勝 佐藤 孝志(経済4年) 1'06"48

20位 富所 芳行(栄養4年) 1'09"88

78位 鈴木 一樹(工学4年) 1'35"15

〈全日本学生ジムカーナ大会〉

8月20日(金)~21日(土)

(於:鈴鹿サーキットランド南コース)

【男子団体の部】(22台中)

17位 東京農業大学

鈴木 一樹(工学4年)

佐藤 孝志(経済4年)

行木 達哉(畜産3年) Total 4'10"07

【男子個人の部】(66人中)

40位 行木 達哉(畜産3年) 1'20"90

51位 鈴木 一樹(工学4年) 1'23"02

57位 佐藤 孝志(経済4年) 1'26"15

〈全日本学生ダートトライアル選手権大会〉

8月29日(日)(於:丸和オートランド那須)

【男子団体の部】

14位 東京農業大学

佐藤 孝志(経済4年)

鈴木 一樹(工学4年)

行木 達哉(畜産3年)

【男子個人の部】

18位 佐藤 孝志(経済4年)

31位 行木 達哉(畜産3年)

70位 鈴木 一樹(工学4年)

〈カレッジカップ'99〉

11月3日(月)(於:東京ベイサイド)[福島]

【男子部車の部】(60台中)

予選 14位 EP71T 敗退

島野 41"670

石山 41"670

Total 1'27"875

〈全日本学生自動車運転競技大会〉

11月20日(土)

【男子団体の部】(12台中)

9位 東京農業大学

鈴木 一樹(工学4年)

佐藤 孝志(経済4年)

富所 芳行(栄養4年)

田中 敏文(経済4年)

《男子個人の部》

【普通貨物の部】[日野 レンジャー]

6位 鈴木 一樹(工学4年)

【小型貨物の部】[トヨタ ダイナ]

10位 佐藤 孝志(経済4年)

【普通乗用の部】[トヨタ マークII]

D.O 富所 芳行(栄養4年)

【小型乗用の部】[トヨタ スターレット]

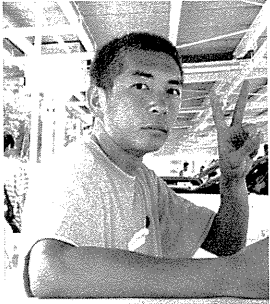
8位 田中 敏文(経済4年)

平成11年度
卒業生の4年間





平成12(2000)年度



主将 行木達哉

このたびは農大自動車部が創部70周年を迎えるに当たり心からお祝い申し上げます。
早いものでOBとなって3年、主将としての1年間の思い出を書くに当たり、薄れ行く当時の記憶を振り返ってみると、本当にやりたい放題のわがまま主将であったと我ながら感動しております(笑) 全くの私事ですが、後輩の大塚と昨年結婚し今年の春に息子が無事生まれました。これも偏に農大自動車部が私の傍若無人を寛大に受け止めてくれたおかげだと感謝しております。

思い起こせば、入部当初は10人近くいた同期部員もいつのまにやらいなくなり、最後に残ったのが私と連盟員の田中だけ。おかしい? 予定では私も3年あたりでとんずらしているはずだったのに……逃げる機会を失った。そんなわけで主将としての器の無い私がこの大役を任命されてしまったわけです。

畜産学科がキャンパス移転にともない厚木から部活への参加となり普段はあまり活動には出られず、部室に来たと思えば「これやっというて」と後輩達に仕事をたのんでばかり。何かを決めるにしてもほとんど自分で決めてから周りには事後承諾。他人の整備があまり信用できないのでしあげは自分(小心者)で。試合車作りにおいては単純作業は下級に押し付け、大事なところはほとんど自分か3年の2人と。しかも時間をもったいなかった(余裕が無かった)ため、なぜにその作業が必要なのかなどは説明せず、下級生の考える力や自主性を全くといってよいほど育てなかった駄目主将です。しかし! 我が車部人生に一片の後悔も無く、全てにおいて当時のベストな選択であったと今でも思いながら日々仕事に励んでいます。

最後になりましたが、こんな駄目主将に協力してくれ農大自動車部を盛り上げてくれた、当時の現役部員達にこの場をお借りしてお礼を言わせていただくとともに、農大自動車部のますますの発展と躍進を祈念して私の思い出とさせていただきます。

平成12年度役員

主将———行木達哉(蓄4) 会計・書記・OB会担当——伊達雅人(バ13)
幹事・主務・車輛———大北英俊(工3)



平成12年度試合結果

〈全関東学生ジムカーナ選手権大会〉

4月29日(日)(於：浅間台スポーツランド)

【男子団体の部】

8位 東京農業大学

大北 英俊 (工学3年)

伊達 雅人 (バイオ3年)

行木 達哉 (畜産4年)

【男子個人の部】

10位 伊達 雅人 (バイオ3年)

11位 行木 達哉 (畜産4年)

59位 大北 英俊 (工学3年)

【女子個人の部】

11位 大塚 彩子 (栄養2年)

〈全関東学生ダートトライアル選手権大会〉

6月25日(日)(於：丸和オートランド那須)

【男子団体・個人の部】

横転リタイア 東京農業大学

【女子個人の部】

7位 大塚 彩子 (栄養2年)

〈全日本学生ダートトライアル大会〉

8月6日(日)(於：テクニックステージタカタ)

【女子個人の部】

リタイア 大塚 彩子 (栄養3年)

〈全日本学生ジムカーナ選手権大会〉

8月26～27日(日)(於：鈴鹿サーキット南コース)

【男子団体の部】

5位 東京農業大学

伊達 雅人 (バイオ3年)

行木 達哉 (畜産4年)

大北 英俊 (工学3年)

【男子個人の部】

4位 行木 達哉 (畜産4年)

24位 大北 英俊 (工学3年)

42位 伊達 雅人 (バイオ3年)

【女子個人の部】

7位 大塚 彩子 (栄養2年)

〈全日本学生自動車運転競技大会〉

11月4日(日)(於：東京サマーランド)

《男子個人の部》

【普通貨物の部】

7位 大北 英俊 (工学3年)

【小型貨物の部】

6位 石山 高広 (経済2年)

【普通乗用の部】

8位 伊達 雅人 (バイオ3年)

【小型乗用の部】

6位 行木 達哉 (畜産4年)

《女子個人の部》

【小型貨物の部】

T.O. 大塚 彩子 (栄養2年)

〈全関東学生自動車運転競技大会〉

11月26日(日)(於：陸上自衛隊下志津駐屯地)

【小型貨物の部】

優勝 石山 高広 (経済2年)

8位 志村 建児 (工学2年)

13位 山田 泰裕 (化学1年)

19位 大塚 彩子 (栄養2年)

【小型乗用の部】

6位 古野 毅 (工学2年)

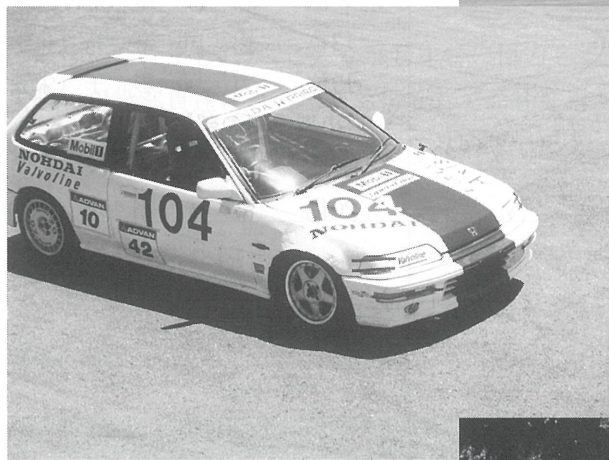
20位 高橋 剛之 (森林2年)

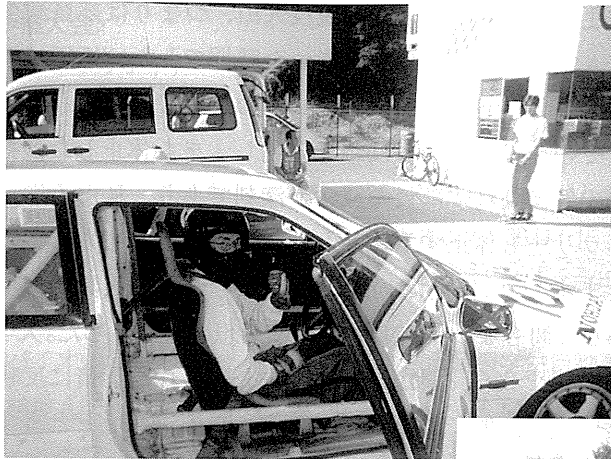
お悔やみ

謹んでご冥福をお祈りいたします。

2000年7月9日(日) 前部長 淡谷 恭蔵先生

平成12年度
卒業生の4年間

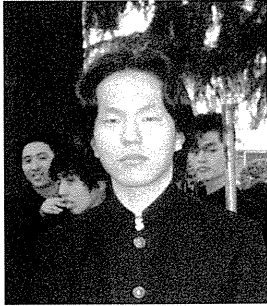




大会参加
選手・観客



平成13(2001)年度



主将 伊達雅人

在籍中の4年間は、学生の自動車競技人口、つまりは部員減少に付随する問題が年々深刻になり、各大学に重くのし掛かっていた時期でした。原因は社会情勢、若年層の意識変化等が複雑に関与しており一筋縄にはいかぬ問題でありましたが、学生連盟も必死に解決策を模索し、その結果競技内容は年々変化し、また休止した競技もありました。

当校でもその例に漏れず部員の減少が深刻であり、私が入学、入部した平成10年を最後に伝統の新春ラリーも休止することとなってしまいました。私の代が最後の新春ラリー経験世代となります。当時同期は4名。やはりこのような人数での今後の行事継続は難しいであろうと入部して間もない我々でも容易に予想はつきました。大学のカリキュラムが変わったことで部活に費やせる時間が大幅に減少し、さらに世情に反映して学生バイトの賃金も安い為労働時間は必然的にのびる。また親からの負担などとうてい期待できない。そんな状況の中でさらにお金のかかる自動車競技という部活をやろうとする人が減るのも無理ないのかもしれませんが。そんな中で部員を確保、増員する為に必死でした。今思ってみればあのころは『部員を増やす為に試合で勝ってアピールしよう』という本末転倒な考えで動いていました。そんな中、運良く有望な女子部員が入部してくれ、非常によい成績を残してくれました。部内の空気は一気に明るくなり、それが呼び水となって新入部員数が回復し、現在、状態は上向きに進み、現在は後輩達が順調に道を歩んでくれているようです。ただ欲を言えばもうちょっと男子部員にも頑張ってもらいたいです。

あの時先輩方とつけた道は間違った方向に向かってはいなかったと確信しています。あとはこれからの後輩達はその道をどれだけ気持ちよく走ってくれるか、見守っていこうと思います。

平成13年度役員

主将	伊達雅人 (M14)	競技・備品	島野 諭 (森3)
幹事	石山高広 (経3)	会計	志村建児 (工3)
車輛・書記	高橋剛之 (森3)	主務	大竹宏幸 (工3)
競技・備品	古野 剛 (工3)	OB会担当	大塚彩子 (栄3)



平成13年度試合結果

〈全関東学生ジムカーナ選手権大会〉

4月30日(日)(於：浅間台スポーツランド)

【男子団体の部】

- 13位 東京農業大学 (EF9)
- 大北英俊 (工学4年)
- 石山高広 (経済4年)
- 伊達雅人 (バイオ4年) Total 4'33"43

【男子個人の部】

- 20位 伊達雅人 (バイオ4年) 1'26"34
- 30位 石山高広 (経済4年) 1'28"22
- 70位 大北英俊 (工学4年) 1'38"87

【女子団体の部】

- 3位 東京農業大学 (EF8)
- 大塚彩子 (栄養4年)
- 小暮沙織 (経済3年) Total 3'09"03

【女子個人の部】

- 3位 小暮沙織 (経済3年) 1'27"79
- 8位 大塚彩子 (栄養4年) 1'41"24

〈全関東学生ダートトライアル選手権大会〉

6月24日(日)(於：丸和オートランド那須)

【男子団体の部】

- 9位 東京農業大学 (EP82)
- 大北英俊 (工学4年)
- 石山高広 (経済4年)
- 伊達雅人 (バイオ4年) Total 5'26"44

【男子個人の部】

- 23位 石山高広 (経済4年) 1'45"83
- 24位 大北英俊 (工学4年) 1'47"58
- 34位 伊達雅人 (バイオ4年) 1'53"03

【女子団体の部】

- 3位 東京農業大学 (EP71)
- 大塚彩子 (栄養4年)
- 小暮沙織 (経済3年) Total 3'51"66

【女子個人の部】

- 3位 大塚彩子 (栄養4年) 1'52"22
- 5位 小暮沙織 (経済3年) 1'59"44

〈全日本学生ダートトライアル選手権大会〉

8月5日(日)(於：丸和オートランド那須)

※事故による大会出場自粛

〈全日本学生ジムカーナ選手権大会〉

8月25, 26日(土、日)(於：鈴鹿サーキット南コース)

※事故による大会出場自粛

〈全関東学生自動車運転技術競技選手権大会〉

10月21日(日)(於：板橋教習所跡地)

【小型乗用の部】

- 9位 佐野智哉 (工学2年)
- 29位 坂本瑞樹 (醸造2年)

【小型貨物の部】

- 6位 山田泰裕 (化学3年)
- 失格 小暮沙織 (経済3年)

〈第1回日本学生エコカードライビングコンテスト〉

11月12, 13日(土、日)(於：兵庫セントラルサーキット)

19位 東京農業大学

〈全日本学生自動車競技大会〉

11月24日(日)(於：近鉄自動車学校)

【男子団体の部】

12位 東京農業大学

【男子小型乗用の部】 [トヨタ ビッツB]

失格 山田泰裕 (化学3年)

【女子小型乗用の部】 [トヨタ ビッツB]

失格 小暮沙織 (経済3年)

【男子普通乗用の部】 [マークII グランデ]

失格 古野毅 (工学4年)

【男子小型貨物の部】 [トヨタ ダイナ]

失格 志村建児 (工学4年)

【男子普通貨物の部】 [トヨタ ダイナ超超ロング]

9位 大竹宏幸 (工学4年)

平成13年度
卒業生の4年間

